

新世代
栃木の酒

下野杜氏 新酒発表 2013

人気イベント、今年も盛況。



栃木県酒造組合(渡邊護会長)の定番イベント「新世代栃木の酒 下野杜氏 新酒発表 2013」が4月17日の午後、足立区千住のシアター1010で開催され、第1部「流通・飲食店向けさき酒会」(13:30~16:30)と、第2部「栃木の酒を楽しむ会」(18:30~20:30 会費 3500円)、さらには「日本酒セミナー」(16:45~18:15)も交えた盛りだくさんの内容で、日本酒ファン的好评を博しました。



肴はおつまみ弁当
益子焼のぐい呑み付き



デザートには名産イチゴ・ちちおとめ



● 27の若手蔵元が力を合わせて

同会の開催は今年で11回目。若手蔵元が中心になって企画・運営するシンプルな「手作り感」が魅力で、今回も県内27の蔵元が力を合わせて、下野地酒の魅力をアピール。

一般消費者を対象とした『栃木の酒を楽しむ会』では、およそ450人の参加者が、栃木の食材を詰め込んだおつまみ弁当を肴に出品酒を堪能し、蔵元との懇親もぐっと深まった様子でした。

「人・技術・米」が一体になった栃木地酒の魅力を堪能

▶ 『栃木の酒を楽しむ会』の冒頭、会場を埋めた来場者を前に、県組合の渡邊会長が歓迎の挨拶。



「今夜は若手蔵元が中心になって醸した栃木の新酒をたっぷり用意しました。和らぎ水(仕込み水)を合の手に、ゆっくり味わって、これからもぜひ栃木地酒を応援してください」



大盛況だった「栃木の酒を楽しむ会」。上は渡邊会長



27蔵元が自己紹介

◀ 渡邊会長の挨拶の後は、27 蔵元の代表が勢ぞろいして、「よろしくお願ひします」と、1人ずつ自己紹介の弁。



続いて「下野杜氏」(酒造技術の伝承と栃木地酒の品質向上などを目的に創設された県の資格)の第6期生・齊藤守弘さん(左の写真上)の紹介も行われ、次代を担う新人の登場に会場から大きな拍手が贈られました。下野杜氏の認定者は通算17名に。

▶ 乾杯のシーンでは、栃木地酒の推進役「さら大使」を務める松崎晴雄氏(酒類ジャーナリスト)が「人、技術、米が一体になった栃木の酒を全国に広げよう」と呼びかけたのに対し、参加者全員が益子焼のぐい呑みを掲げて「日本酒で乾杯！」。



友だちと一緒に参加したという女性は「参加費が安くて、おいしいお酒がたくさん飲めて、お弁当もデリシャス。三拍子そろって大満足です」と語っていました。



栃木地酒で乾杯！

流通向け試飲会&日本酒セミナーも

第1部の「流通・料飲店向けきき酒会」では、酒のプロたちが真剣な試飲風景を繰り広げ、会場には、第2部の「楽しむ会」とはひと味違う緊張した空気が一。

一方、1部と2部の空き時間を利用して開かれた「日本酒セミナー」では、松崎氏が講演を行い、下野杜氏の育成など、行政と協力して新しい試みを続ける「新銘醸地・栃木」の魅力と可能性などを解説しました。



流通向け試飲会の模様

日本酒セミナーの模様

